上尾市立上平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

自立　共感　協働

学校課題研究主題

夢を語り、未来を拓く小中一貫教育
～自ら考え主体的に学ぶ生徒の育成を通して～

学力・学習状況調査の結果

R8 全国学力・学習状況調査	R8 埼玉県学力・学習状況調査	R7 上尾市立小・中学校学力調査
・国語では、「A　話すこと」「B　書くこと」「C　読むこと」が、埼玉県平均正答率及び全国平均正答率を上回った。 ・数学では、学習指導要領の領域では、全ての領域において全国平均正答率を上回ったが、「C 関数」領域のみ、埼玉県平均正答率を下回った。 ・英語は、「話すこと」が埼玉県平均正答数及び全国平均正答数を上回り、「読むこと・書くこと」は埼玉県と同等で全国を上回ったものの、「聞くこと」は埼玉県及び全国を下回った。	・国語では、１年生の「情報の扱い方・我が国の言語文化」を除き、すべての領域で県の学力レベルを上回っている。「話すこと・聞くこと・書くこと」では、全学年でやや顕著に上回っている。 ・数学では、現２年生はどの学力層も全体的に学力が向上している。現３年生は下位層と上位層で学力の向上が見られたが、中位層は変わらなかった。 ・英語では前年度と比較して、上位・中位・下位層ともに学力の向上が見られた。また埼玉県の平均と比較すると、レベル１２の層が上回っている。一方で、レベル１０、１１は下回っている。	・国語では、１学年は、すべての項目において目標値を上回った。２学年は、領域の「情報の扱い方に関する事項」について課題がみられる。 ・数学では、１学年も２学年もほぼ全ての領域で目標値を上回った。ただ、成績下位層の基礎学力に課題がみられる。 ・英語では、１学年・２学年ともにほとんどの領域で目標値を下回った。１学年・２学年ともに「読むこと」が課題である。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①自身の考えを文章にして書いたり、文章を読んで内容を理解したりする力。 ②課題解決に向けた方策を見付ける力。 ③情報やデジタル技術を理解して、適切に活用する力。	④計画・実行・振り返りにおいて課題を発見し、解決したり新たな価値を創造したりする力。 ⑤多様な考えを伝えたり、理解しながら協働し、対立やジレンマに対処する力。	⑥困難な課題に対して、先生に聞いたり、調べたりして粘り強く取り組み、目標を達成する力。 ⑦互いの良さを生かして協働する力。 ⑧学習の進め方について試行錯誤し、調整する力。

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
授業の初めにねらいを提示し、授業のまとめと生徒の振り返りを対応させ、生徒が自らの学習活動を次につなげ、新たに課題を発見できるように発問を工夫する。また、知識・技能の定着のために小テスト、ＩＣＴを活用したフラッシュカード、実技テスト等を実施する。	多面的な視点から物事を捉え、論理的に思考・判断・表現する力を育成することを目的に、単元・教材に応じて課題発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、協働学習等を取り入れた授業を行う。グループディスカッション、ディベート、ワークショップ等も取り入れる。	上平中スタンダードによる授業規律の徹底や、生徒の自主的な学びを促すことを意識した授業を行う。実践的・体験的な学習活動を多く取り入れ、生徒自らが学びたいと思える授業を創造する。協働しながら課題解決をさせることで、生徒に成就感を味わわせ、次の学習へつなげる。

本校の特色ある取組	家庭教育との連携
○あいさつ運動 ○K-タイム（朝学習・朝読書）の充実 ○面談（二者面談・三者面談）を通した、積極的な生徒理解 ○ＩＣＴを活用した授業、家庭学習の支援 ○レインボールームの有効活用 ○生徒会活動・専門委員会の充実（生徒集会）	○家庭との連携（さくら連絡網等を活用した日々の情報共有、家庭訪問、面談等） ○オンライン教材を活用した家庭学習の充実 ○PTA 活動の充実（美化活動、奉仕活動等）